

NOP NEWS

2017年初春号

22

ニュー・オペラ・プロダクション

〒168-0064 東京都杉並区永福 3-20-3 TEL: 03-3328-0817 FAX: 03-3328-0655
e-mail newopera@jcom.home.ne.jp URL http://members.jcom.home.ne.jp/newopera

明けまして、おめでとうございます。

私は元日生まれのため、新年を迎えると同時に馬齢を重ね86歳となります。1987年末、NHKの退職勧奨制度により57歳で定年退職してから今年丁度30年目の節目の年に当たります。

NHKで凡そ30年、オペラ、バレエ番組を主に、「世界の音楽」「音楽の広場」等の構成番組、「名曲アルバム」等の現場で培ったノウハウを生かし、第二の人生を日本のオペラ文化振興に少しでも役立てたいという願いから、退職三年後の1990年に、このニュー・オペラ・プロダクション（NOPノップ）を組織しました。それ以来、自主オペラ公演を13回、NOPコンサートと名付けた自主コンサートを52回、それ以外に各地の市民オペラ、地域オペラ団体の依頼を受けて演出、制作協力したオペラの件数は46、公演数は80に達しました。また、新国立劇場を初め様々な団体からの字幕監修の仕事、オペラ歌手育成の為の研究所経営、オペラ・ビデオ鑑賞会講座開催等々、お客様達の楽しみ、喜んで下さるお姿を励みに、今日まで頑張ってきました。応援して下さいました皆様には改めて心から御礼申し上げます。今や資力、知力、体力共に衰え、十分ご期待に添えないのが残念で、申し訳なく思いますが、もう一踏ん張り、力の続く限り歩み止めない所存ですので、本年も引き続き、ご声援のほど、よろしく願い申し上げます。

ニュー・オペラ・プロダクション代表 杉 理一



講座での杉

NOPオペラ・ビデオ鑑賞会講座 第9シリーズから第10シリーズへ

2010年10月に、上野駅前の東京文化会館大会議室で「舞台裏で知るオペラの魅力」というサブタイトルで第1シリーズ第1回のオペラ・ビデオ鑑賞会講座を開いて以来、毎年春と秋に1シリーズ4回の講座を開いて来て、昨年秋に、第9シリーズまでを無事、終了しました。会場は東京文化会館のご理解、御協力が得られ、その会議室で行って来ましたが、2014年には文化会館が改築工事に入ったため、その年の春秋2回は池袋の芸術劇場に会場を移しました。NHKイタリア歌劇公演を初め、私が中継放送に関わり、記録として私が保存していた映像を、会場のスクリーンに投影、講義とは言いながら、殆どオペラの舞台裏の制作やテレビ中継の現場の苦心談、エピソードなどで皆さんが、より一層楽しみながらご鑑賞出来るように務めて来ました。何十年も前のベーター等による記録で、保存状態も良くなかったため、映像も音声もかなり劣化しているものもありましたが、他所では見る事の出来ない貴重な珍しい映像が多いので、お客様には楽しんでいただけているようです。

新年はまた、4月から6月にかけての季節に4回、第10シリーズの開催を予定しています。第9シリーズの最終回に、まだ、お見せしてないNOP所蔵のDVDリストの中から、これは、と思われるものを列挙し、ご出席の皆さんからアンケートで、ご希望演出を出していただきましたので、それを基に、プログラムを組み、日時、会場など固まりましたら、既に鑑賞会会員の方にはご案内状を発送します。このNOP NEWSをご覧になり、ご関心がある方は当プロダクションにお問い合わせの上、お申し込み下さい。尚、詳細はホームページ「ようこそニュー・オペラ・プロダクション」を開いてもご覧になれます。



6月17日 オペラ・アプローズ公演 「夕鶴」の演出・制作協力

かつて、二期会のテノール歌手として第一線で活躍、東京室内歌劇場公演にも出演して注目を集め、国立音楽大学の教授としても後進の指導にも当って来られた砂川稔さんからの依頼で、曳舟文化センターでのオペラ「夕鶴」を演出することになりました。砂川さんは国立音大教授を退任した後は指揮者としても活躍、オフィス・アプローズという組織を立ち上げ、その芸術監督・指揮者として今迄に演奏会形式ながら、「ラ・ボエーム」「蝶々夫人」「魔笛」などを上演し続けて来られました。600席足らずの小さな劇場ならではのコンパクトな密度の高い舞台に仕上げるべく、NOPのオペラ制作の経験をお役に立てようと、目下、その準備を進めています。

キャストは、つうに稲見里恵、与ひょうに青柳素晴、運ずん清水良一、惣どに佐藤泰弘の皆さん、東京シンフォニックアンサンブルのオーケストラを指揮するのは汐澤安彦さんです。



オペラ
夕鶴
作曲 團伊玖磨

2017年6月17日(土) 17時開演
曳舟文化センターホール

総監督 砂川稔 / 指揮 汐澤安彦 / 演出 杉理一

【キャスト】
つう 稲見里恵
与ひょう 青柳素晴
運ずん 清水良一
惣ど 佐藤泰弘

管弦楽 墨田室内オーケストラ
舞台美術 / 倉本政典 照明 / 大平智巳 衣装 / 倉岡智一 舞台監督 / 岸本伸子

【チケット】 S 7000円 A 6000円 学生券 3000円 (発売日2017年3月予定)
【チケットお取り扱い】 03-3612-1318(オフィスアプローズ)

【後援】 墨田区・墨田区教育委員会 申請中 / (財)土屋文化振興財団 / 国立音楽大学東京同窓会 / 武蔵・日本テレビ文化センター
【協賛・協力】 神和ヒアノ株式会社・遠空物流株式会社
【主催】 オフィスアプローズ TEL 03-3612-1318 applaus@krc.biglobe.ne.jp http://speranza.verse.jp/

備考 わらへ歌を歌う子供たちを募集します。詳細は別紙HPをご覧ください。
(http://speranza.verse.jp/sumidre)



総監督 ● 砂川 稔



指揮 ● 汐澤安彦



つう ● 稲見里恵



与ひょう ● 青柳素晴



運ず ● 清水良一



惣ど ● 佐藤泰弘

1月、7月、12月に横浜市青葉区オペラを楽しむ会で講座

昭和音楽大学教授で音楽評論家の小畑恒夫さんのご紹介で、「青葉区のオペラを楽しむ会」を主催している近藤恒夫さん、後藤啓二さんにお会いし、その団体が2015年から毎月、1回か2回、専門の講師の方の解説をつけて行っている講座の一員に私も加わることになりました。その内容は次の通りです。

オペラを楽しむ会♥平成29年杉講師講座スケジュール

講座名	開催月	講座の概要
創って見せる側から語る オペラの面白さ 杉理一 講師 ニュー・オペラ・プロダクション 代表取締役	1月	「観る側」から「創って見せる側」への転身～NHKイタリア歌劇が日本オペラ界にもたらしたものの「思い出のイタリア歌劇」(1984年9月NHKで放送)から シミオナート(カルメン)、デルモナコ(オテロ)、テバルディ(トスカ)などの名唱・名演場面を紹介する。
	7月	「新しくオペラを創る難しさ・楽しさ」 創作した落語オペラ「死神」(ザルツブルグ・テレビオペラ賞2位)、文楽人形オペラ「鳴神」(同グランプリ受賞、「耳なし芳一」(創作オペラ・フェスティバル)、源氏物語オペラ「未摘花」(三菱信託音楽奨励賞受賞)のハイライト紹介。
	12月	「テレビ・スタジオ・オペラの珍品傑作集」 藤原義江の「ラ・ボエーム」、川崎静子の「カルメン」、中村健の「愛の妙薬」、栗原義信の「外套」など、他では見られない秘蔵映像を公開する。

私の講座のメイン・タイトルは「創って、見せる側から語るオペラの面白さ」、1月のサブタイトルは「『観る側』から『創って、見せる側』側への転身」～NHKイタリア歌劇公演が日本オペラ界にもたらしたもの～。その第1回目は新年早々の6日、第2回目は27日で、デルモナコの「オテロ」、シミオナートの「カルメン」、テバルディの「トスカ」などの映像をお見せしながらお喋りする予定です。いずれも金曜日で午後3時20分から5時45分迄、会場は横浜市藤が丘地区センター(田園都市線、藤が丘駅から徒歩5分)です。ご関心があって参加してみたいという方がいらっしゃいましたら、事務担当の後藤啓二さん(携帯電話 090-4179-2081)にお問い合わせ下さい。会場に定員制限がありますので、お早めどうぞ。

静岡グランシップ「音楽の広場」コンサート2016

2013年以來、毎夏、グランシップの大会場で行われる、このコンサート、昨年は8月7日の日曜日に開かれ、お客さんが2,700人、オーケストラ220人、合唱340人、子供のダンサー65人、歌や器楽のソリスト十数人、計3,300人余、広上淳一さんの指揮のもと、此の回もまた、華々しい大音楽会となりました。ソプラノ大岩千穂さん、テノール福井敬さん、ヴァイオリン・ソロが徳永二男さん、それに特別ゲストは五輪真弓さんでした。私は大岩さん、福井さんの歌うオペラ・アリアの字幕監修を担当したのですが、

今回のコンサートの後半に、昨年が丁度、没後20周年だった武満徹さんの曲が歌手達によって歌われましたが、「翼」「死んだ男の残したものは」「心の友」など、私はその素晴らしさに衝撃的と言っていいほど強く心を打たれました。



歌う大岩千穂さんと福井敬さん：上
最高潮に盛り上がった会場の全景：左

第2回 NHK 旧洋楽班祝寿懇親会を開催

2年前の2014年に第1回のNHK旧洋楽班祝寿懇親会を開催し、43の方が集い、楽しい歓談のひとつきを過ごしましたが、その折、今後も、何年かおきに、このような集いをして欲しいという声が多かったこともあり、皆、高齢化していることも考えて、昨年11月5日に会場は前回と同じ、渋谷東急本店8階のレストラン「DEMI」で昼食の時間に開催しました。案内の発送や名簿の作成、会場の交渉などは私がやりましたが、当日の受付、会費徴収などは大塚修造、柴田俊一、大神倫章、山上博史さんたち世話人が取り仕切ってくれました。前回は八十数人に案内を出し、出席者は付き添いの方を含めて43人だったのに対し、今回は24人という淋しさでした。前回、世話人代表を務めて下さった前和男さんも、夫人付き添いの車椅子で出席した岡弘道君も亡くなり、ご高齢の小島さん、飯沼さんもご欠

席でしたが、92歳の大先輩の中野吉郎さんも90歳の三善清達も、お元気な姿を見せて下さり、今回の紅一点だった田村孝子さんも出席してくれて、人数が少ないなりに膝を交えての歓談に花が咲きました。もし、今後も、この会を続けるなら、「後は頼むぜ」とばかりに、世話人役を若い世代の後輩にバトン・タッチしました。



姉葉子のプライベート・マネージメント

ご存じの方も多いと思いますが、私の姉葉子は、戦後間もない頃、東宝映画会社のニューフェイス募集に受かり、間もなくして、「青い山脈」に新子役としてデビュー、映画が空前の大ヒットしたため、すっかり有名人の仲間入りが出来た幸運女優でした。しかし、その後も七十本もの映画、「丘は花ざかり」「めし」「夫婦」「月は上りぬ」「山の音」等に出演したのに、「青い山脈」出演のインパクトがついて回りました。結婚してドイツ、アメリカ等に住まいを移し、伴侶を失ってからは、長くロサンゼルスに住み、ホテル・ニュー・オータニに頼まれて日本文化を紹介するイベント・プロデューサーとして活躍、文化庁から、日米文化交流使に任じられたこともありました。しかし、姉も寄る年波で昨年、米寿の祝いの歳を迎えました。一人住まいが難しくなるの見越して、昨年、私が迎えに行き、日本に連れ帰って、介護付き施設として評判の高いホームへ入居させました。ところが、丁度、杉家のルーツである愛媛県東予市にある「全国税を考える会」から、姉に講演依頼があり、そのマネージメントを引き受けました。

結果、「昭和という時代と映画の全盛期」という題の姉の講演会は、それ以前のどの講演会よりも人気が高く、大入りだった、と主催者から感謝の言葉が寄せられました。

全国税を考える会（伊予西条間税会）

米寿「青い山脈」ヒロイン杉葉子氏

ロスアンゼルスより帰国「昭和と映画 全盛期」



プロフィール
■1928年（昭和3年）10月28日 東京都生まれ。（西条市三芳杉家の杉齋之助氏の孫）
■1947年（昭和22年）第2期東宝ニューフェイスとして入社。
■1949年（昭和24年）「青い山脈」寺沢新子役で青春スターとなる。新鮮な活潑さで人気を集めた。映画出演70本以上。
■2005年（平成17年）度の文化庁「アメリカ文化交流使」に任命された。
■現在、アメリカ・ロスアンゼルス在住。

入場無料

西条市三芳ゆかり すぎ よう こ
講師 東宝女優 杉葉子氏

とき 平成28年10月16日（日）
ところ 東予北地域交流センター
西条市役所 三芳出張所・三芳公民館の隣（三芳駅すぐ近く）
講演会 午後1時30分～ 0898-66-4185

主催 全国税を考える会（伊予西条間税会） 連絡先 0898-64-2329（昭和堂）
後援 西条市・西条市教育委員会

故郷の秋を楽しむ小旅行報告

昨年秋、家内の故郷、岩手県を訪れ、前沢に住む家内の姉と3人で、花巻の大沢温泉に一泊する旅を楽しんで来ました。東京のスカイツリーから眺める瓦礫の原のような殺伐たる風景より遙かに美しい、全山紅葉に包まれた自然の景観に心を浸し、命の洗濯をしました。下の写真は宿の窓から見た景色で、我ながら巧く撮れたと思い、掲載することにしました。

